

包括的な学校改善の推進に向けた校長のマネジメント

中核校	浜頓別町立浜頓別小学校	指定校	浜頓別町立浜頓別中学校 猿払村立浅茅野小学校
-----	-------------	-----	---------------------------

実践前の状況

- ・ 校長が示す学校経営方針について、教職員及び保護者、地域住民との共有が十分ではなかった。
- ・ 対話的な学びのある授業、ICTを活用した授業の実践イメージの共有がなかなか進まなかった。

実践の概要

焦点化を図ったランドデザインによる学校経営方針の浸透

- ・ 網羅的に示していた従来の学校経営構想図を焦点化したランドデザインを作成し、学校運営協議会やPTA総会、HP上にも提示し、学校経営方針とその具現化に向けた手立てについて関係者の共通理解を図った。
- ・ グランドデザインは、学校教育目標の3つの視点を輪に見立て、地域と保護者が支えるデザインとすることにより、関係者一体となって目指す子ども像の実現に取り組む意識の醸成を図った。

校長による提案授業

- ・ 全教職員の参加でGoogleフォームやジャムボードを活用する校内研修を実施し、ICTを活用した対話的な道徳科の提案授業を全学年で1時間ずつ実施した。自らの意思や意見を発信するツールとしてタブレットを用いること、中心的な発問を明確に設定し、児童の対話によって道徳的価値に迫っていく流れを示すことで、本校の授業づくりの課題解決を図った。

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・ グランドデザインの作成に当たっては、令和4年度の学校評価から「目指す子ども像」を再度全教職員で精査するところから始めた。新たな指針と文言の変更を行い、その内容を盛り込むことで、全職員がランドデザインの当事者であることを明確にした。
- ・ ICT活用研修の推進は若手職員に依頼するよう研修部に指示し、他の職員への波及効果や講師となった若手職員のモチベーションの向上を図った。道徳科の提案授業は、題材の世界に浸り過ぎず、自分事として考えさせるための「課題」「中心的な発問」の工夫に焦点を当てた。指導案データは、指導後の振り返りも含め全教職員に即時発信した。

〔事務職員及び専科教員の取組〕

- ・ 事務職員による毎月の勤務時間の可視化、専科教員のICTを活用した理科指導の実践により、今求められている教育の方向性、組織的な学校づくり、教職員の働き方等について、全教職員の意識が高まるようにした。

成果（ ）と今後の課題（ ）

ランドデザインの焦点化により学校評価と改善サイクルの結びつきが明確になり、全教職員のベクトルをそろえることができた。〔学校評価（教職員）の「学校評価を生かした改善サイクル」が定着し、地域保護者への公表も迅速に行われている。〕の項目について、肯定的な評価が増加した。（R5 : 88% R5 : 100%）

超過勤務時間の可視化により、勤務時間に対する意識を高めることができた。〔学校評価（教職員）の「時間外勤務の超過時間を月45時間以内におさえるよう意識して業務を推進している。〕の項目について、肯定的な評価が増加した。（R5 : 59% R5 : 79%）

令和6年度に向けて、目指す子ども像の見直しと重点教育課題の変更を行ったことから、ランドデザインを一新し、さらに保護者・地域・教職員が一体となった学校づくりを一層推進する。



【焦点化を図ったランドデザインの一部】



【ICTを活用した提案授業の様子】